

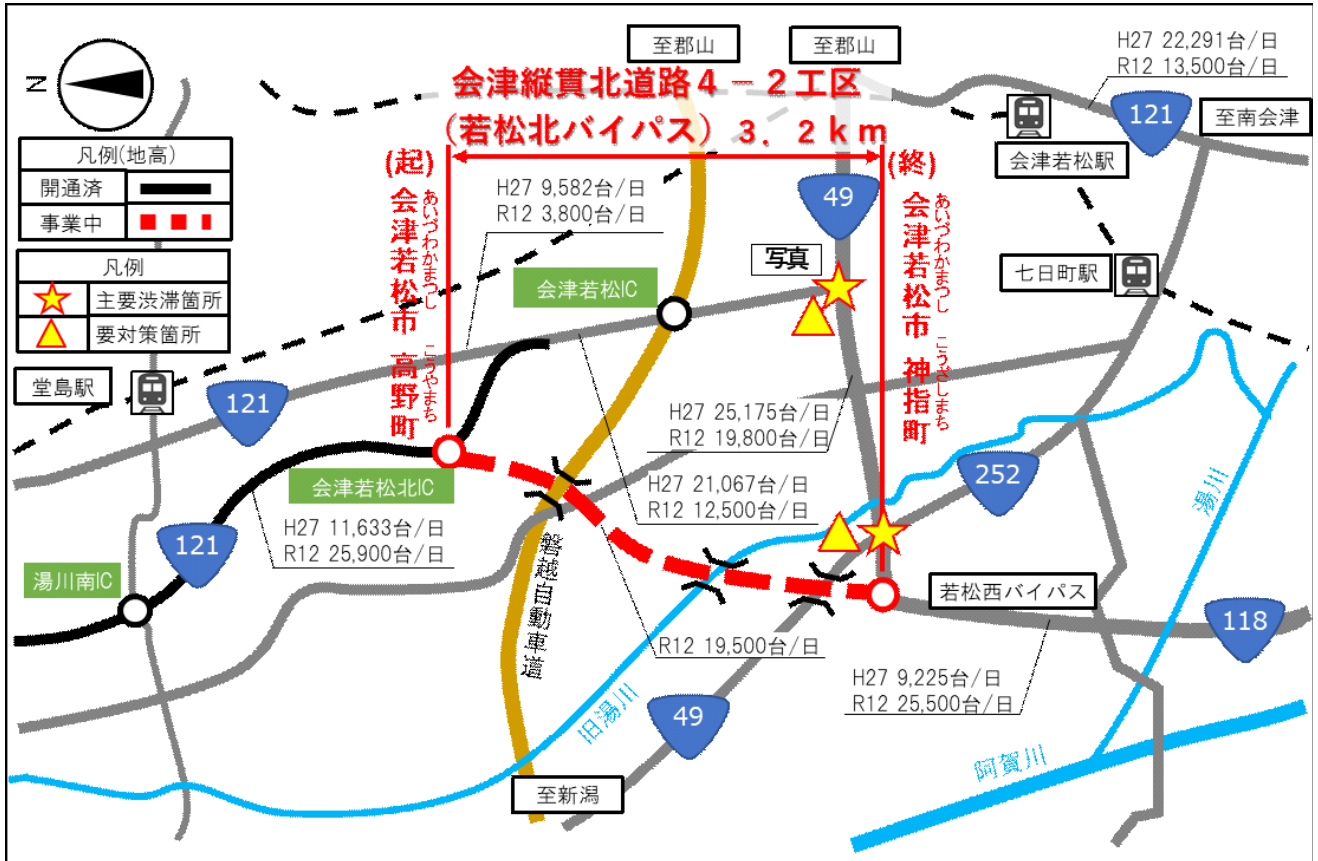
再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

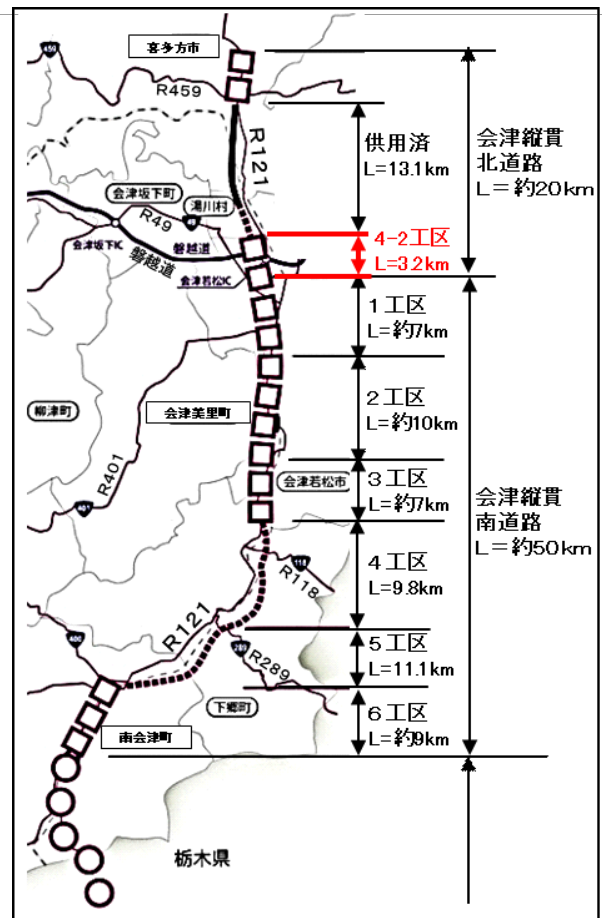
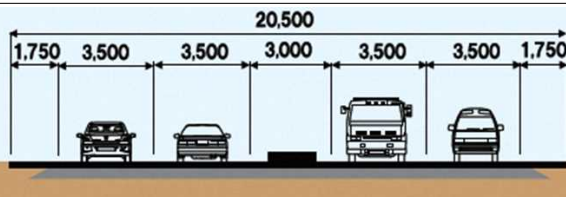
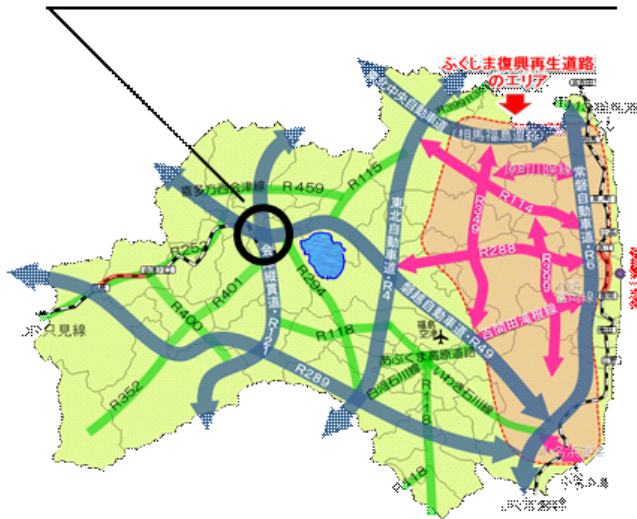
担当課長名：前佛 和秀

事業名	地域高規格道路 <small>あいつじゆうかんきた</small> 会津縦貫北道路 一般国道121号 <small>わかまつきた</small> 若松北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	福島県		
起終点	自：福島県会津若松市高野町 <small>こうやまち</small> 至：福島県会津若松市神指町 <small>こうさしまち</small>	延長	3.2 km				
事業概要	会津縦貫北道路は、「福島県総合計画（ふくしま新生プラン）」及び「福島県復興計画（第3次）」の「県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト」に位置づけられ、県土の骨格となる6本の連携軸の一つである会津軸を担う地域高規格道路として磐越自動車道及び会津縦貫南道路と一体となり高速交通ネットワークを形成するものであり、会津若松市高野町～会津若松市神指町までの延長約3.2 kmを整備するものである。						
H28年度事業化	H27年度都市計画決定	R2年度用地着手	R3年度工事着手				
全体事業費	約11.4億円	事業進捗率	約13%	供用済延長	— km		
計画交通量	19,500台/日						
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 2.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 83/94 億円 事業費：81/92 億円 維持管理費：2.4/2.4 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 190/190 億円 走行時間短縮便益：158/158 億円 走行経費減少便益：16/16 億円 交通事故減少便益：15/15 億円	基準年	令和2年		
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.2(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.8～2.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.8～2.3(事業期間±20%)</td> <td style="width: 50%; border: none;">(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.1～2.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.6(事業期間±20%)</td> </tr> </table>					(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.2(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.8～2.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.8～2.3(事業期間±20%)	(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.1～2.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.6(事業期間±20%)
(事業全体) 交通量：B/C=1.8～2.2(交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.8～2.2(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.8～2.3(事業期間±20%)	(残事業) 交通量：B/C=2.0～2.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.1～2.5(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.0～2.6(事業期間±20%)						
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・会津若松ICへのアクセス向上による、会津地方を中心とした周辺地域の産業振興 ・緊急物資等の輸送を可能とする、災害に強い交通ネットワークの確保 ・広域ネットワークの形成による、会津地域の総合医療施設へのアクセス性向上、冬期間の広域的な迂回路の確保 						
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商工会や教育関係者等が、会津地区道路整備促進期成同盟会とともに、政府や国土交通省に対し、会津縦貫北道路整備の重要性及び必要性を強く訴えとともに、早期完成等を要望している。 						
事業評価監視委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続を妥当と認める。 						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域の道路整備状況や観光客（インバウンド）増を背景に、将来交通量（19,500台/日）が前回評価（15,800台/日）よりも増加している。また、人口減少社会において交通サービス水準の向上と物流の効率化の観点から、会津縦貫道の重要性が高まっている。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得率約1%、事業進捗率約13% 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> ・残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、改良及び橋梁工事を推進していく。 						
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業残土を流用し、コストの縮減に努める。 						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。						

事業概要図



会津縦貫北道路4-2工区
(若松北バイパス)



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

※